

ASCAL による検証パートナーの募集

今回の法改正でプログラムの定義がされ、大臣認定ソフトの扱いが変わります。

新制度における認定ソフトを用いた確認申請では、バグによる計算ミスを防ぐ目的で、異常値の有無をチェックした資料の提出を求められます。重大なバグが発見されるとプログラム認定は取り消され、確認済みの物件でもバグに触れていなかったかの調査対象になる可能性があります。

本来、制度がどうであれバグによる計算ミスの影響を避けるために、何らかの検証は実施されるべきです。

非認定としての申請で計算過程の審査に委ねるのも 1 つの方法かも知れませんが、自主的に行うことを促す異常値有無のチェックは、検証の必要性とその費用をご理解いただく絶好の材料ではないでしょうか。後の調査で安全性に問題があると指摘されるような事があってはなりません。真にバグによる計算ミスを担保する検証を行って頂きたいと存じます。

弊社では、別の認定ソフトによる検証が最も効率が良く確実であろうと考え、他社製品の申請時添付データから ASCAL データを生成するジェネレータ(一部ソフトについては逆方向も)の開発を企画しております。

計算結果が同じ場合、検証側でも被検証側でもバグに触れていないと言えます。異なる場合、構造技術者としての判断が求められるでしょう。つまり、コンサルや検証依頼といったビジネスの可能性があるということです。

ジェネレータ作成時には、機能のご相談、テスト等にご協力をお願い致します。運用においては、検証ビジネスへのご協力をお願い致します。

別ソフトによる検証が構造設計者の信頼を回復し、ソフトの品質を高めると考えますが、ソフトメーカーが単独で行える事ではありません。主旨にご賛同頂きましたら、是非ご応募下さい。

ご応募いただける場合は、裏面に必要事項をご記入の上、FAX 下さい。

パートナーとして採用の暁には、少なくともジェネレータの無償提供はさせていただきます。(ジェネレータは、レンタルで一般に提供予定)

2007 年 9 月 吉日

株式会社 アークデータ研究所
代表取締役 吉沢俊正

FAX 送付先 03-5850-5701**TEL 03-5850-5700 (株)アークデータ研究所**

御社名・お名前

所在地

〒

連絡先 TEL/FAX

メール

主な請負物件 構造

規模

年間の請負件数

ご使用ソフト

SS2BUSBUILD 一貫SEIN La CLEA

ご使用期間

年 月

年 月

年 月

年 月

プログラム作成の経験

有 無

少なくともマニュアル等の作成にはご協力頂きたいところです。

検証お問合せ先として

可 不可

のご紹介

ジェネレータのレンタル事業を委託する場合があります。

弊社 HP にてご紹介させて頂くことは、複数ソフトで安全性を確認するとの宣伝効果があるかもしれません。

ご紹介できる応募者を優先いたします。

その他

締め切り後 2 週間ほどで、今回募集のパートナー（各ソフト 2,3 社）を決定いたします。

ご応募および今後の状況によりジェネレータの開発を取りやめる他社製品のあることは予めご了承ください。

尚、ASCAL では、躯体入力に関する限り構造計算の知識は必要ないので、分業することによりジェネレータに頼らずとも再計算の採算をとることは可能です。